

# CASBEE<sup>®</sup> さいたま2016年版 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)浦和神経サナトリウム 日館新築工事	階数	地上4F
建設地	さいたま市南区大字広ヶ谷戸字福荷越301番1の一部、301番2、301番3の一部、301番4の一部、301番5の一部、302番1、309番1、309番2、310番1、310番2、311番1、311番2、312番2、312番5、312番31	構造	S造
用途地域	一種中高層住専・一種住居・二種住居地域、防火地域 指定なし	平均居住人員	100人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年7月 予定	評価の実施日	2023年05月04日
敷地面積	4,820 m <sup>2</sup>	作成者	■■■■
建築面積	698 m <sup>2</sup>	確認日	2023年06月22日
延床面積	2,557 m <sup>2</sup>	確認者	■■■■



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 0.8** ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (184 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 99%

③上記+②以外のオンサイト手法 99%

④上記+ 99%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.7

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.4

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.0

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.9

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合	利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。	その他 特になし。
Q1 室内環境	開口部遮音性能:T-2以上。 共用部分: ≥2.5% ≤ [昼光率] 住居部分: 1.25% ≤ [昼光率] ビル全体の禁煙が確認されている。	Q2 サービス性能 給水SUS(C)、給湯SUS(C)、排水VP(B)を使用。 0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3
Q3 室外環境 (敷地内)	特になし。	特になし。
LR1 エネルギー	BPm=0.77。	LR2 資源・マテリアル 節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。 LGS使用している。 ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。
LR3 敷地外環境	特になし。	特になし。

■CASBEE Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

**CASBEEさいたま2016年版**  
 (仮称)浦和神経サナトリウム 日館新築工事

■使用評価マニュアル CASBEEさいたま2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.7</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>		-				<b>2.8</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.3</b>	0.15	<b>3.2</b>	1.00				<b>3.3</b>
1.1 室内騒音レベル		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40				
1.2 遮音		<b>3.8</b>	0.40	<b>3.6</b>	0.40				
1 開口部遮音性能	開口部遮音性能:T-2以上。	5.0	0.40	5.0	0.30				
2 界壁遮音性能		3.0	0.60	3.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	0.20				
1.3 吸音		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20				
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.0</b>	0.35	<b>2.0</b>	1.00				<b>2.0</b>
2.1 室温制御		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50				
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57				
2 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43				
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-				
2.2 湿度制御		<b>1.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	0.20				
2.3 空調方式		1.0	0.30	1.0	0.30				
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.2</b>	0.25	<b>3.0</b>	1.00				<b>3.1</b>
3.1 昼光利用		<b>4.2</b>	0.30	<b>4.2</b>	0.30				
1 昼光率	共用部分:2.5%≤[昼光率] 住居部分:1.25%≤[昼光率]	5.0	0.60	5.0	0.60				
2 方位別開口		-	-	-	-				
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40				
3.2 グレア対策		<b>2.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30				
1 昼光制御	照度が500lx以上1000lx未満。	2.0	1.00	3.0	1.00				
3.3 照度		<b>4.0</b>	0.15	<b>1.0</b>	0.15				
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	0.25				
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.6</b>	0.25	<b>3.5</b>	1.00				<b>3.5</b>
4.1 発生源対策		<b>4.0</b>	0.50	<b>4.0</b>	0.63				
1 化学汚染物質	JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	4.0	1.00	4.0	1.00				
4.2 換気		<b>2.0</b>	0.30	<b>2.6</b>	0.38				
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33				
2 自然換気性能	自然換気有効開口面積が居室床面積の1/15以上。	-	-	4.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50	1.0	0.33				
4.3 運用管理		<b>5.0</b>	0.20	-	-				
1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-	-	-				
2 喫煙の制御	ビル全体の禁煙が確認されている。	5.0	1.00	-	-				
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-				<b>2.7</b>
<b>1 機能性</b>		<b>2.4</b>	0.40	<b>2.6</b>	1.00				<b>2.4</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.60				
1 広さ・収納性		-	-	3.0	1.00				
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-				
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-				
1.2 心理性・快適性		<b>1.0</b>	0.30	<b>2.0</b>	0.40				
1 広さ感・景観		-	-	3.0	0.50				
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-				
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50				
1.3 維持管理		<b>3.0</b>	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-				
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>2.9</b>	0.30	-	-				<b>2.9</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.0</b>	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.0</b>	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水SUS(C)、給湯SUS(C)、排水VP(B)を使用。	4.0	0.20	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-				
2.4 信頼性		<b>2.6</b>	0.20	-	-				
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-				
3 電気設備		3.0	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-				
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-				

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.1</b>	0.30	<b>3.2</b>	1.00	<b>3.1</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>3.4</b>	0.30	<b>3.4</b>	0.50	
1	階高のゆとり		<b>3.0</b>	0.60	<b>3.0</b>	0.60	
2	空間の形状・自由さ	0.1≦[壁長さ比率]<0.3	4.0	0.40	4.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.4</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		<b>2.0</b>	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.0</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>2.9</b>
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPIm=0.77。	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
2	自然エネルギー利用		<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
3	設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.99	<b>2.0</b>	0.50	-	-	<b>2.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
<b>1.1 節水</b>		節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.1</b>	0.60	-	-	<b>3.1</b>
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.11	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	断熱材料:ポリスチレンフォーム	3.0	0.22	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	LGS使用している。	4.0	0.22	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.9</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.8</b>	0.33	-	-	<b>2.8</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>2.2</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	